慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	企業内における技術革新プロセスとRDマネジメントに関する事例研究
Sub Title	
Author	浅野貞泰(Asano, Sadayasu) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第660号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0660

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0660

学生氏名　浅野貞泰
（清水建設株式会社）
所属ゼミナール　古川公成研

主査　古川公成
副査　小野桂之介
奥村昭博

企業内における技術革新プロセスと R&Dマネジメントに関する事例研究

本研究の目的は、日本企業が開発した革新的大型技術61件を対象に、①61件の成功事例にみられる【開発→事業化】プロセスのマネジメントの特色を整理し分類すること、②分類した大型革新技術のグループ別に望ましいマネジメントの有り方が異なることを示すことである。

本研究では、革新的な開発プロセスについてその開発初期の段階でマネジメントが推定できる特性として、①開発動機、②推定される開発所要期間、③開発プロジェクトの正否を左右すると思われる要因、④推定される不確実の度合、という4つの項目があると推論した。この推論の背後には、これらの4項目の内容がどのような組み合わせになっているかによって，望ましいマネジメントの有り方が異なるだろうという予想があった。

上記の考察を確認するため、先ず、61件の開発プロジェクトをそれぞれ前述の4項目について個々に精査した上で、61件のプロジェクトは『計画的なイノベーション』『自然発生的なイノベーション』および『外圧促進型のイノベーション』という3つのグループに分類できることを示した。次に、61件の革新的技術についての文献の分析に基づき適切なマネジメントの有り方が上記のグループ別に異なると推論できることを確認した。

文献資料の分析から得られたこの推論を別の角度から確認するため、本研究では、5事例の革新技術について関係者を対象としたインタビュー調査を実施した。インタビュー調査は、文献調査から得られた推論が妥当であることを示した。

この研究結果は、大型新技術開発のプロジェクトを、開発初期の段階で適切に分類すれば、その分類別に望ましいマネジメントの有り方を予め特定できることを示唆している。